

一般国道6号 酒門町交差点における計画段階評価

1. 茨城県水戸市酒門町地区の課題

①渋滞（混雑度）が茨城県内でワースト1位

○国道6号は千葉県と福島県を結ぶ南北軸を担っており、酒門町交差点の交通量は約44,800台/日と多く、混雑度は2.34で茨城県内の直轄国道における全区間でワースト1位。（図1）

○直轄である国道6号（44,751台/日）と国道50号（44,046台/日）が交差し、交通集中により国道6号は上下線ともに朝夕ピーク時に旅行速度が低下している。（写真1）



写真1 国道6号の混雑状況

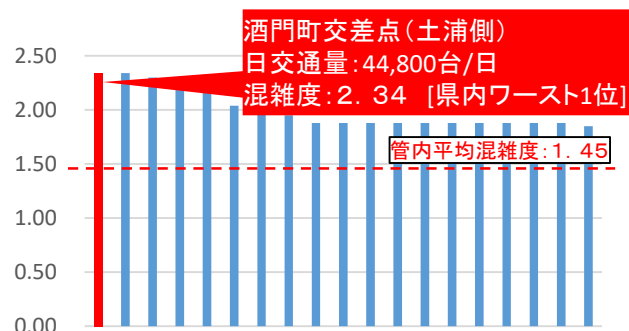


図1 直轄国道（茨城県内）のセンサス区間別混雑度[ワースト20]
※調査未実施箇所を除く 出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

②交通事故（件数）が茨城県内でワースト1位

○酒門町交差点は交通混雑による速度低下による交通事故が多発しており、死傷事故件数は4年間で29件と茨城県内の交差点の中でワースト1位。（図2）

○死傷事故率についても443.9件/億台キロと高く、県内平均の約5倍。（図3）

○周辺の通学路が混雑を避ける車両の抜け道として利用されており危険な状況。（図4、写真2・3）

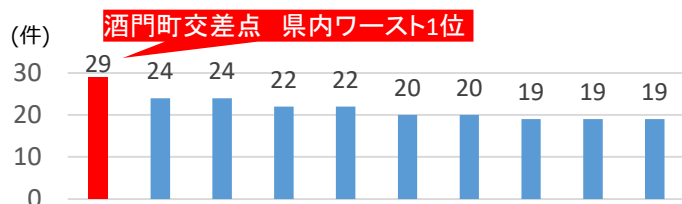


図2 死傷事故件数（県内ワースト10） 出典：ITARDAデータ（H27-H30）

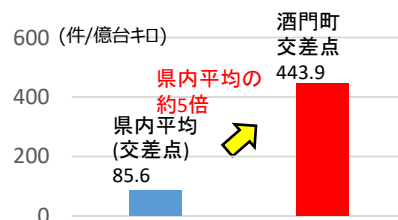


図3 死傷事故率 出典：ITARDAデータ（H27-H30）



図4 酒門町交差点周辺の抜け道および事故発生箇所
（事故発生箇所は、吉田小学校よりヒアリング）



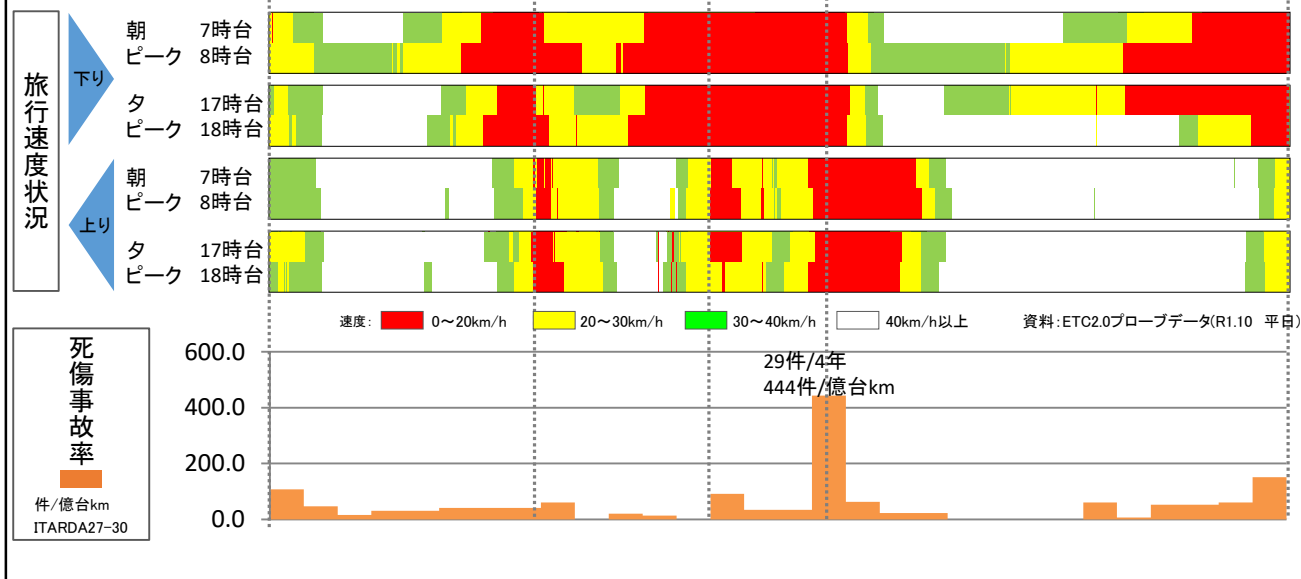
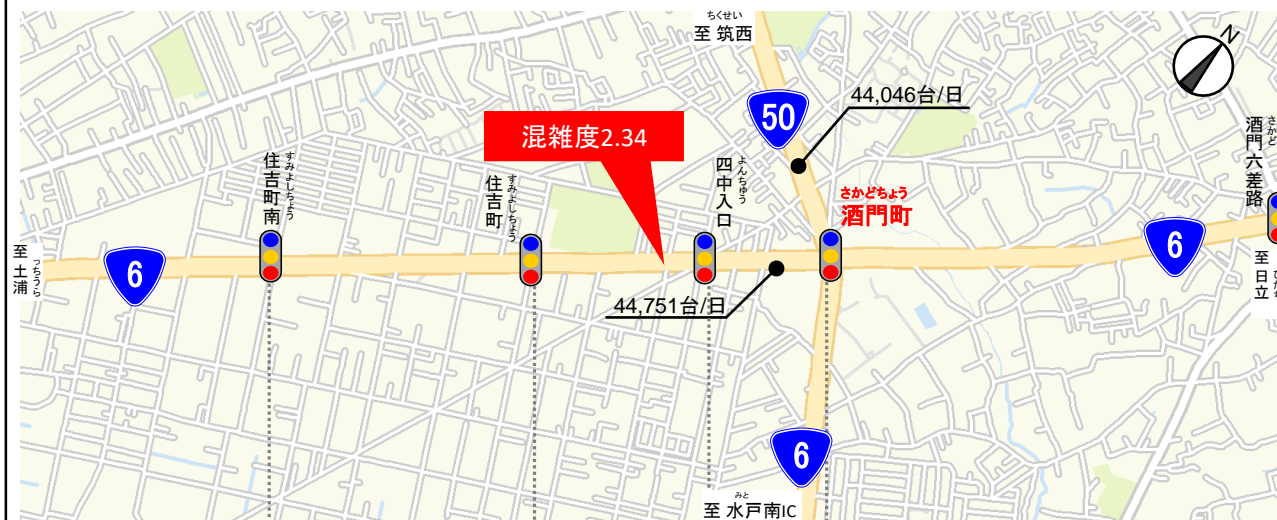
写真2・3 通学時間の抜け道利用の様子

2. 原因分析

①交通集中による渋滞が発生

○酒門町交差点は茨城県水戸市の中心部に位置し、南北の基幹道路である国道6号と東西の基幹道路である国道50号が交差しており、いずれの方向から交通量が多い状況となっている。

○当該区間は4車線で暫定整備済みであるものの、多くの交通が流入するため渋滞が発生。（特に朝夕ピーク時間帯を中心に速度低下が発生。）



3. 政策目標

①交通渋滞の緩和

②速度低下に起因する交通事故の減少

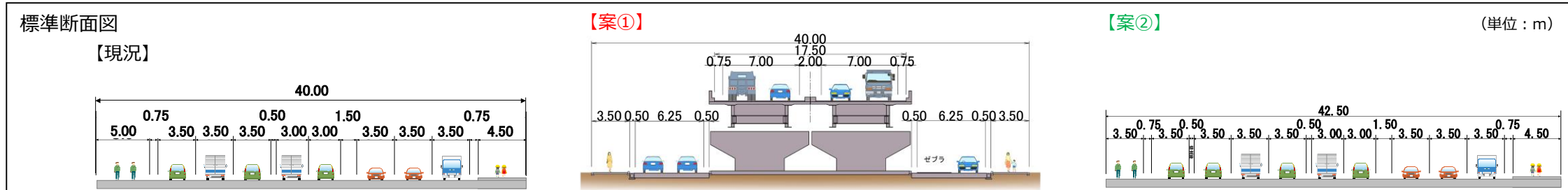
③混雑を避ける車両の抜け道利用の減少により、通学児童等の安全性向上

一般国道6号 酒門町交差点における計画段階評価

4. 対策案の検討

評価軸	【案①】6号立体案	【案②】平面交差点改良案
交通渋滞の緩和	○ 旅行速度の低下がみられる国道6号の立体化により、交差点に起因した交通渋滞が抜本的に解消し、国道6号の速達性が向上。	× 平面改良による整備効果は限定的であり、交差点に起因した渋滞の混雑緩和にはつながらない。
速度低下に起因する交通事故の減少	○ 立体化による交通渋滞の緩和により、交差点への交通流入が減少し、また速度低下に起因する交通事故が減少。	× 交差点の交通渋滞が解消されず、依然として幹線国道の旅行速度が低下したままとり、交通事故の減少が見込まれない。
通学児童等の安全性向上	○ 交差点の混雑解消に伴い、混雑を避ける抜け道利用が減少し、通学児童等の安全性が向上。	× 交差点の交通渋滞が解消されず、周辺通学都が抜け道利用される状況は改善されない。
生活環境 (補償物件数) 施工時の影響	○ 補償物件数: 0件 現都市計画通りの整備である。 立体化整備に必要な用地は取得済み、物件補償は生じない。	△ 補償物件数: 0件 整備に必要な用地取得が生じる。 物件補償が生じない。
コスト	△ 約60億円	○ 約1.2億円

凡例	
	対象箇所
	高速道路
	一般国道
	主要地方道
	一般都道府県道
	その他道路
●	主要渋滞箇所
★	事故危険区間
交通量台/日	交通量(斜体は推定値) (平成27年度 全国道路・ 街路交通情勢調査)
 	市街地(集落)
 	工業団地
○ 施設	主な施設
	市町村境界線
	車線数(2車線/4車線)



対応方針(案): 案①による対策が妥当

【計画概要】

- ・路線名: 一般国道6号
- ・区間: 水戸市住吉町～酒門町
- ・概略延長: 1.1Km
- ・車線数: 4車線
- ・設計速度: 80km/h

(参考) 当該事業の経緯等
都市計画決定等の状況
S63.4 都市計画決定

地域の要望等
H29.7 水戸市長が要望
H30.7 水戸市長が要望
H30.8 茨城県中央地域首長懇話会が要望
R1.7 水戸市長が要望
R1.8 茨城県中央地域首長懇話会が要望
R2.2 水戸市長が要望
R2.10 水戸市長が要望